

## 会場ご案内

- 地下鉄「市役所」駅 2番出口より東へ徒歩約10分
- 名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約8分
- 基幹バス「市役所」下車 東へ徒歩約10分
- 市バス幹名駅1「市政資料館南」下車 北へ徒歩約5分



入場  
無料

# 共生 を考える フォーラム

日時

平成28年2月28日（日） 9:30～16:00  
(9:00開場)

場所

威尔あいち 愛知県女性総合センター  
〒461-0016 かみたてすぎのちょう  
愛知県名古屋市東区上豎杉町1番地

参加費

無料

申込方法

別紙 申込書に必要事項をご記入のうえ、  
郵送またはFAXにて下記宛先までお申し込みください。

定員

800人

お問合せ  
/申込先

共生を考えるフォーラム実行委員会 事務局  
(特定非営利活動法人かくれんぼ内)  
〒462-0047 名古屋市北区金城町4丁目47  
TEL 052-918-7410 FAX 052-918-7411

2016.2.28(日) 9:30～16:00

【会場】威尔あいち

- 主催  
特定非営利活動法人かくれんぼ
- 共催  
特定非営利活動法人あいち福祉ネット／特定非営利活動法人なごや福祉ネット
- 後援  
名古屋市健康福祉局高齢福祉部高齢福祉課  
名古屋市教育委員会



この事業は、競輪の補助を受けて実施します。

# 共生を考える

## フォーラム 2.28 プログラム

JKAの助成のもと、NPO法人かくれんぼとその仲間たちで初めて「共生を考えるフォーラム」を催します。「お年よりも、障がい者も、こどもも健常者も今まで暮らしてきた地域で誰もが等しく輝いて生きよう！」を提案をいたします。地域医療と福祉の連携の大切さと難しさ、今後地域力をいかに生かしていくのか…を考えます。今回、「この先生きていくのが不安」を抱えている人の声をどのように支え、そのなかで一人ひとりが楽しく輝いて生活するための「地域づくり」を本音で語り合います。

■手話通訳あり

★ロビーにて「さをり織り」体験コーナー実施！

9:30~9:50	開会式	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生を考えるフォーラム実行委員会挨拶 実行委員長 水野 千恵子</li> <li>オープニング 「ひびき・鼓打磨（こだま）」による和太鼓演奏</li> </ul>
9:50~10:20	基調講演	<b>「自助、共助（互助）、公助の地域ケアを考える」</b> 厚生労働省 社会・援護局保護課自立推進・指導監査室 室長 荒川 英雄
10:20~11:10	特別講演	<b>「『生活に寄り添う医療』を届けたい」</b> オレンジホームケアクリニック 代表 紅谷 浩之
11:10~12:25	ディスカッション	共生を考えるディスカッション <b>「これからの医療と介護、どうなるの？」</b> ～医療と介護の連携による地域包括ケアを語る！～ 司会 ……厚生労働省 荒川 英雄 パネラー ……オレンジホームケアクリニック 代表 紅谷 浩之 特定非営利活動法人さわやかさばえボランティア虹 代表 天谷 まり子 たけなか外科内科こどもクリニック 医院長 竹中 拓晴 愛知県長久手市役所 福祉部次長 兼 福祉課長 清水 修
12:25~12:55	休憩	昼休憩 ※昼食はご持参ください。
12:55~13:10		<b>「STUMP」によるダンス</b>
13:10~13:25		あいち福祉ネット紙芝居「認知症ってなあに??」
13:25~14:25		<b>増田 太郎 バイオリン演奏</b>
14:25~15:40	ディスカッション	<b>対談「お互いさまのまちづくりって？」</b> 長久手市 市長 吉田 一平 名古屋市健康福祉局高齢福祉部長 松雄 俊憲 南医療生活協同組合 成瀬 幸雄 特定非営利活動法人かくれんぼ 理事長 水野 千恵子
15:40~16:00	閉会式	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィナーレ 「フラピカケ・フラハイビスカス」によるフラダンス</li> <li>閉会のことば</li> </ul>

### 和太鼓 ひびき・鼓打磨（こだま）

愛知県東郷町において障がいをもつ児童の地域参加を目標に設立。和太鼓を親子で演奏し、障がい児童とその家族が地域とつながるために障がい者太鼓フェスティバル、障がい者スポーツセンターまつり、各種公共行事等への出演を行い活動を続けている。



### STUMP（スタンプ）

10代からダンスを始め、コンテスト優勝やアーティストのバックダンサーの経験をもつa-need（アニー）がダンスを通して知的障がいを持つ方にチャレンジ精神と健康維持、そして踊る楽しさを伝えるために2011年に設立。各種コンテストやイベントへの出演を通じて障がい者福祉への関心を高め、地域における障がい者支援を行っている。



### 「これからの医療と介護、どうなるの？」

～医療と介護の連携による地域包括ケアを語る！～

地域包括ケアで求められる「医療と介護の連携」とは、単に病院や診療所と介護事業所が連絡を取り合うと言う事だけでなく、チームとして、どのようにその人の日常生活を支えて行くのか、地域で生活できる基盤としてどのような「まちづくり」をしていくのかが問われています。それぞれの立場で医療・介護を通じたまちづくりに努められている紅谷氏・天谷氏をお迎えして、あるべき「医療と介護の連携」についてディスカッションを行います。

厚生労働省 社会・援護局  
保護課自立推進・指導監査室長

荒川 英雄

### 「『生活に寄り添う医療』を届けたい」

自分が幼少期を過ごした地元で、地域に根差したやさしい医療、人々の生活を支える医療をやりたいと思い地元福井へ帰る。そこで気づいたのは「街中でも在宅医療の需要は想像以上に高く、自宅暮らしながら療養したいと思っている方が多いこと」そこで「地域の人たちに『生活に寄り添う医療』をもっと届けたい」という思いを実現するために迅速かつ柔軟な対応ができる体制を目指して、オレンジホームケアクリニックを立ち上げる。

オレンジホームケアクリニック 代表 紅谷 浩之

### 長久手市長 吉田一平

2012年1月市制施行により初代市長に就任。「つながり」「あんしん」「みどり」の3つを基本理念に据え、市政を運営。市民が家庭や地域、学校や職場において「私が必要とされている」と実感できる、「一人ひとりに居場所と役割があるまち」の実現を目指している。

### 名古屋市健康福祉局 松雄俊憲

名古屋市健康福祉局高齢福祉部長。平成12年の介護保険制度の創設の携わる。東日本大震災発生時には陸前高田市「丸ごと支援」を実施。地域包括ケアシステムの構築を通じて、高齢者が医療や介護が必要になっても人生の最後まで安心して暮らせる名古屋のまちづくりに取り組む。

### 南医療生協 代表理事 成瀬幸雄

戦後、経済は成長したが、家族や家庭の力、地域力の劣化は止まる気配がありません。一家団らんは「希少品種」になっていますが、せめて「地域団らん」の地域社会は市民の努力によって可能ではないかと思い、まちづくり運動に取り組んでいます。

### 増田 太郎



5歳よりヴァイオリンを始め、20歳で視力を失うが、「ヴァイオリンを弾きながら歌う」という独自のスタイルで音楽活動を展開。その生命力あふれる演奏が話題に。楽曲《雲》がNHK《みんなのうた》で放送されたほか、ヴァイオリニストとして、森山直太郎さんの楽曲《手紙》や様々なアーティストのレコーディング、コンサートに参加。ニッポン放送《ラジオ・チャリティ・ミュージックソン》に、2002年より出演。東日本大震災発生直後に、楽曲《希望の景色》を発表。同アルバム収録楽曲《Waltz Noir（ワルツノワール）》がテレビ東京《美の巨人たち》エンディングテーマとして放送。味の素スタジアムで開催された《スポーツ祭東京2013》（国体開会式・障害者スポーツ開会式）にて、アトラクションにおけるヴァイオリン・ソロとミニコンサート、児童合唱とともに震災復興ソング《花は咲く》を演奏。《JAPAN DAY(NYセントラルパーク)》《スポーツ祭東京2013開会式(味の素スタジアム)》など、国内外で活躍中。CD《希望の景色》、エッセイ《毎日が歌ってる》がある。